



厳しすぎる残暑

気象庁が発表した1カ月予報によると、向こう1カ月も全国的に高温傾向で、9月に入っても厳暑が続く見込みとのこと。

山梨県に発表された熱中症警戒アラートは、去年は22回でしたが、今年はずでに25回（8月17日時点）となっています。過去最高の暑さだった2023年を上回る暑さとなりそうです。

厳しすぎる残暑が続くことが予想されている中、暑さによる体への負担が大きくなっていますので、十分な睡眠時間の確保や栄養補給など、日々の体調管理を心がけていきましょう。



子どもまつい

9月29日(日) 15:00~

少子化が進む中、地域で活動している子どもたちが、イベントを通して子どもたちが主役となり、地域の活性化に繋がることをねらいとして、昨年初開催された「神金子どもまつり」を今年も開催できることになりました。

去年は夏休み中に開催しましたが、熱中症のリスクや農繁期ということも考慮し、9月に開催することになりました。

子どもたちが主役となるイベントですが、地域の子どもたちが元気に活動する様子を地域の方々にも見ていただきたいと思います。

塩山北中 お知らせ

第53回 蒼天祭 最後の学園祭

9月8日（日） 9：00～

*雨天の場合は9日（月）

◆日程

- 9：00～ 開祭式（文化の部までは体育館で開催）
- 9：30～ 文化の部（合唱発表，弁論発表など）
- 13：15～ 体育の部（長縄跳び，綱引き，リレー等）
※綱引きは来場者に参加していただきます

◆地域の皆様へ

- 参観制限はありませんので，自由に参観してください
- 体育館開場時刻 8：40
- 駐車場は，学校下の植野工業資材置き場となります（学校敷地内は駐車不可です）
- 綱引きには，多くの地域の方々の参加を願っています

塩山北中学校閉校記念事業実行委員会

塩山北中学校閉校記念事業実行委員会が開催され，地区代表としての区長会長さん，卒業生代表，PTA役員，学校運営協議会委員等が参加しました。

今後，事業内容について検討していくこととなります。



◇神金文化祭展示作品の募集◇

10月末に開催予定の神金文化祭の展示作品を募集しています。地区内の方々の様々な作品を展示していきたいので，ご協力をお願いいたします。

神金の歴史

地元の歴史研究家でもある故飯島卓郎氏が、神金小学校PTA会報「ふもと」に執筆し寄稿した「神金の歴史」をシリーズで紹介します。

新青梅街道 八

重川を渡ると雲峰寺のご朱印地である。徳川家康公から拝領の式石一斗六舛の内である。橋を渡るとすぐ右側に通称黒門という壮大な山門がある。参道は黒門から五百米程あるが、水害で大部分が流失している。途中に柳沢甲斐守吉里の寄進した渡香橋（お成り橋）や石燈籠があったが今はない。

新青梅街道は雲峰寺参道の北側にあったが、明治四十年の水害で流失し現在は参道の南側に移され、参道を二ヶ所横切って柳沢峠に向かっている。旧青梅街道は雲峰寺の前を大菩薩嶺に向かって東進している。

雲峰寺は天平十七年（七四五）行基菩薩によって開創された。元は天台宗であったが、今は改宗し臨済宗妙心寺派に属している。この地は甲府の鬼門に位置しているところから、武田家の武運長久の祈願寺として篤く尊崇され保護も受けた。本堂・庫裡・書院・仁王門共に国の重要文化財に指定され、室町時代の密教建築として文化的価値の高いものであり見るからに美しく且つ荘厳である。

天正十年（一五八二）大和村の田野に於て武田家滅亡の折、再起を計った家臣が当山に納めた重宝・日の丸の御旗（日本最古）・孫子の旗（風林火山）・諏訪明神旗・信玄公馬印の旗・無楯鎧喉輪等々数多くの宝物が保存されている。昔、天台宗教学の道場であった頃、寺の前を流れる川を「禊川」又は「禊の沢」と名づけたが、清らかな水で罪や汚れを洗い流すという日本固有の信仰に基づくものである。禊の沢は今は略されてみぞの沢といわれているが、この沢に「堂」という地名があるが、ここのお堂で若い僧侶たちが寒中でも酷しい禊ぎにより心め汚れを流し修行に専念したものと思う。

時代の流れには、如何に伝統ある名刹でも栄枯盛衰から免れることはできない。明治元年に神仏分離令が発布された。それまでは神も仏も同じ場所に祭られていた。神部神社には市の文化財に指定された十一面観音菩薩が鎮座していた。金井加里神社には正徳年間（一七一三）福蔵院の末寺堂聖寺の住職が別当を努めた記録があり、社前の手洗いの水鉢には仏のシンボルである蓮の花が刻まれてある。

*次ページに続く

神金の歴史

神仏分離令は、神道を国教にする政策で廃仏毀釈である。神社には幣帛料という名の補助金を出して保護し、寺院はいらぬという風潮になった。従って各寺院は衰退の一路を辿ったのである。雲峰寺も例外ではなかった。屋根の葺き替えもできない状態で物置と書院を売却することになり、競争入札の方法をとった。その結果仲子沢の宮原安一郎氏（後の神金村長）が金五十五円にて落札した。しかし寺側はこの競争入札には不正があったとの理由で売却を拒んだので遂に訴訟になった。この問題は甲府の裁判所では決まらず控訴して、東京の裁判所で審判を受けた。

この一件は書類によると、今全国で問題にしているなれ合いによる談合入札が、この頃既にこの地でも行われていて宮原氏が不当に安く買ったというのである。この入札に参加したのは十名の入札者で、当時神金村の一流の人達（ボス）であり、その中には雲峰寺の檀家総代も加わっていたので、問題は複雑で判断に苦しんだのである。入札の価格は誰が見ても談合をしたことが歴然としたものである。

その後のことは書類で知る由もないが、物置も書院も現存しているので和解が成立して白紙に戻したものであると思われる。寺の境内は、杉・桧の大樹が茂りて天を覆い、荘厳なる建物と共に幽邃なる環境は靈気により心身が浄化される感がある。

当山にはお八朔といい、毎年八月一日に近在近郷の馬が鞍をつけ、鬘に注聯を垂らし、首に鈴を付けて、色鮮やかな腹布を張り、紅白の手綱をもって乗り、全身満艦飾に飾り観音様に無事息災を祈願するお祭りがあった。この日は本堂を開帳し書院に於て武田家の重宝の虫干しをかねて一般に参観させた。参詣者は多く、境内は申すまでもなく屋台店が並び賑わった祭りであったが、時代が変わり馬が少なくなると共に寂れてしまった。

（参考資料） 中萩原丸田敏朗氏所蔵

